

仙波湖

野ノ諸荷物運送第一ノ所ナリ、
〔新編常陸國誌山川〕仙波湖音用

補、舊誌云、在茨城郡水戸大城南郭外、源出那珂河、東流至河股村、復會那珂河入海、水戸領地理志云、東西三十町餘、南北六七町餘アリ、漁獵ヲ禁ジ、鯉、鮒、鰻、鱧ノ屬多ク産ス、又、菱、荷、蓴菜アリ、漫遊紀談云、水戸城要害ノ第一ニシテ、西南ノ郭外ヲ遶レリ、其源池野邊ヨリ出デ、箕川等ノ地ヲ經、笠原山下ヲ過ギ、東流シテ川股村ニ至リ、那珂河ニ合シテ海ニ入ル、湖中新ニ堤ヲ築キ、楊柳、楓樹ヲ兩行ニ殖ユ、所謂西湖ノ蘇堤トモ云ベシ、以上湖水ノ東流スルモノヲ伊奈堀ト云フ、水戸領地理志云、千波ノ湖水市中ヲ經テ濱田村ニ通ジ、坂戸町付ノ地ニ至リテワカレ、一ハ谷田、六反田、栗崎、東前、大串、鹽崎、平戸ノ地ヲ流レテ、島田ニ至リ、涸沼ノ下流ニ合シ、一ツハ澀井、吉沼、上大野西、上大野東ノ地ヲ過テ、那珂川ニ合流ス、慶長十五年伊奈備前守令シテコレヲ穿テ、田ニツヅカシム、因テ伊奈堀ト稱セシ由、土人亦備前堀トモ云フ、

〔桃源遺事〕五一水戸城邊の仙波の池は、湖水ともいふべき程の池也、その中に堤有、長十町此堤を行かふ人多し、されば炎天に木陰なく、行人暑に苦まんことを思召、又其景色の爲に西湖の蘇堤に准へ、兩岸に楊柳をひしと御うゑさせ、柳が堤と御名付候、夫よりして夏日のあつき日も、柳陰連り、かげ涼しく、堤に休ふ者おほく、四時の景色またこと也、略下

近江國
琵琶湖

〔書言字考節用集〕二坤、琵琶湖、故名焉、事見草山集、

〔運歩色葉集〕丹湖海、

〔書言字考節用集〕一乾、坤、湖海、又作鳴海、跨江州十二

〔皇代記〕孝靈五年、近江湖水始湛、富士山始出、
〔近江國輿地志略〕五湖水